

	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の読み、書き、語彙力など基礎的な知識や技能が定着していない生徒が多い。</li> <li>自分の考えを文章にするのが苦手な生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の小テストを定期的に行い、定着を図るとともに語句の意味の確認をこまめに行う。</li> <li>感想や意見などを書く機会を増やす。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な知識技能が定着していない生徒が多い。</li> <li>授業の振り返りを文章で書くことが苦手な生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テストの機会を多くするなど、継続して学習する環境を整えていく。</li> <li>振り返りの記述内容を生徒同士で共有するなど、自身が書いた文章を振り返る機会を多くする。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な計算力が身に付いていない。特に分数や小数を含む計算の正答率は低い。</li> <li>文章題などの立式に数学的な言葉や表現を正しく用いて説明することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算問題や小テストを反復練習させて基礎的内容の確実な習得を図る。</li> <li>立式にするポイントを押さえ、考え方を身に付けるようにし、反復学習を行う。また、ICTを利用し説明する場面を多く設定する。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な知識・理解の定着を図り、自然の事物・現象について、科学的な見方・考え方を身に付けることが必要である。</li> <li>実験・観察の結果から、自然の事物・現象をより正確に分析・解釈し、考察、表現する力を高めることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テストやICTを用いて基礎的・基本的な知識の理解を図る。</li> <li>観察・実験の方法や結果の処理について取り組ませる。その結果から分かることを考え、自分の言葉で表現することにより、自然現象について理解させる。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞や創作活動に、積極的に取り組んでいる。</li> <li>リコーダーや歌唱に難しさを感じる生徒がいる。</li> <li>音楽を形作っている要素とそれらの働きを表す用語や記号についての理解を深めていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創作活動においては、表現したいイメージをもたせ、積極的に発表できる機会を作る。</li> <li>個人で練習できる教材を配布し、声掛けを行っていく。生徒同士で教え合う時間を作る。</li> <li>音楽用語などについては、プリント等を使用して少しずつ理解させる。また、個別対応が必要な生徒には丁寧に指導していく。</li> </ul>
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術の各題材に意欲的に取り組み、積極的に授業に取り組んでいる。</li> <li>作品づくりの見通しをもって、自ら調整する力を高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>題材を通した授業計画を確認し、見通しをもって取り組み、結果を振り返り、工夫を重ねさせる。</li> <li>ICT利活用や言語活動など、作品づくり以外の表現活動も取り入れることで、主体的に学習に取り組む態度を養っていく。</li> </ul>
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健ではICTを活用しているが、体育の活用が少ない。</li> <li>1年次に基本的な知識・技能を身につけて簡単なゲームや試合が行えるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットを用いて動きの確認やペアで練習方法を見つけられる取組みの時間を増やす。</li> <li>ペアやグループでの話し合い活動や、協力して行えるグループワークを多く取り入れ、学び合える場面を提供していく。</li> </ul>

技術 家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ガイダンス」、「製図」、「材料と加工の技術」について、製作図と製作加工について理解しやすい授業の工夫をする。</li> <li>・学習課題の取り組みに遅れがちな生徒の対応策を考える。(技術)</li> <li>・発問には積極的に応答し、意欲的に授業に取り組んでいる。</li> <li>・栄養素について理解している生徒は多いが、食品と関連づけて考えることが難しい。(家庭)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板を活用し、製図・製作加工について説明をする。また動画・書画カメラを使って学習指導内容を深める。</li> <li>・個々の生徒に対して机間指導を含めた学習指導をする。(技術)</li> <li>・発言する生徒が限られているので、様々な発問を準備し発言の機会を設ける。</li> <li>・自らの食生活を振り返る授業や、ワークシートを使用して6つの基礎食品群について知識の定着を図るように指導していく。(家庭)</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティビティーには積極的に取り組んでいる。</li> <li>・発話はできるが、英文を組み立てたり、文章を書いたりすることに苦手意識をもつ生徒が多い。</li> <li>・家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多いので、基礎基本の定着に時間がかかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティビティーを行うことで、単調になりがちな口頭練習にも積極的に取り組めるよう工夫する。</li> <li>・授業ノートに要点をまとめ、練習問題プリントに取り組むことで学力の定着を図る。</li> <li>・毎回単語の意味調べや3回練習、本文写しなどの簡単な宿題を課すことで家庭学習の定着を図る。</li> <li>・前時の授業内容の復習を丁寧に行い、基礎基本の定着を徹底する。</li> </ul>